

2018年12月23日

福音書からのメッセージ

主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いです。

(ルカによる福音書1章45節)

降臨節第4主日となりました。今日、わたしたちに与えられた聖書には、二人の女性の「あいさつ」の場面が描かれています。イエス様の母になるマリアと、洗礼者ヨハネを半年前に身ごもったエリサベトです。二人には共通点がありました。それは二人とも、常識ではありえない妊娠をしたということです。

エリサベトは高齢で、不妊の女と言われていました。当時の社会で赤ちゃんを授かることは神さまの祝福のしるしとされていたのですが、彼女には子どもが出来ず、夫であるザカリアも諦めていました。しかしそのザカリアの元に天使ガブリエルが現れ、エリサベトが身ごもることが予告されたのでした。

一方マリアは、まだ10代後半だったと思われる。ヨセフという婚約者はいましたが、結婚はしていませんでした。もし結婚前に妊娠してしまったら、不貞の女として石打ちの刑にあってもおかしくありません。そんな中、マリアの元にも天使ガブリエルが来て、聖霊によって彼女が身ごもることを告げたのです。

マリアの心には、恐れや葛藤が生まれたでしょう。何で自分なんか。周りの人たちのことはどうしよう。それは当然のことです。それでも彼女は「お言葉通り、この身になりますように」と天使の言葉を受け入れます。そして自分と同じように神さまの力が働いたエリサベトの元に行き、挨拶をするのです。

日本語で挨拶というと、人と人との関係が中心になります。お互いを知り合ったり、絆を深めたり、そのようなものです。しか



し聖書で言うところの挨拶には、それ以上の意味があります。間に神さまの存在があるのです。神さまがわたしたちの間において、平安を与えてくださる。そのことを喜び合いながら、挨拶をするのです。

もう間もなくクリスマスを迎えます。クリスマスはイエス様の誕生を記念する日です。しかしイエス様の誕生は、2000年前にたった一度だけ起こった出来事ではありません。今もわたしたちの心の中に、イエス様は生まれてくださいます。しかしわたしたちはそのことを、なかなか「お言葉通りになりますように」と受け入れることができません。わたしたちを遮っているものは何でしょうか。今までの経験や自分の姿、神さまになんか頼らなくても生きていけるという自信、手放したくないものがある、こんなわたしを神さまが大切にしているはずがないという思い、などなど。

「お言葉通りになりますように」、その言葉を神さまは求められています。神さまは、わたしたち一人一人にも呼びかけ、手を差し伸べ、そして関わろうとされているのです。自分の思いに背を向け、神さまに向き直るそのときに、わたしたちはイエス様の誕生を心から受け入れることができるのではないのでしょうか。

そしてお互いに、神さまを感じながら挨拶をしていければと思います。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>